

今回まとめた一連のGitに関するマニュアル・調査資料は、既にSubversionの経験があるユーザーを対象に、下記の方針でまとめています。

- ・オープンなソーシャル開発を目的としたものではなく、閉鎖的な企業内開発にGitを利用する事を目的としています。
- ・クライアントはWindowsでGUI操作するものとし、利用者の敷居を下げて、多数のスタッフがGitを扱える状態にする事を目的としています。
- ・ユーザー管理、サーバーのバックアップ、拠点間（遠隔地）での開発といった点についてを考慮し、特定の環境・運用ケースを想定したワークフローを提示するものとしています。
- ・サーバーの扱いについては、調査した時に得た情報をそのまま資料化しており、選択の幅がある事を示していますが、基本的にはその調査の結果から得た判断として、RhodeCodeという管理システムを利用したワークフローを提示するものとしています。

以上